



第 1203 回例会報告

平成 22 年 12 月 9 日(木) 晴れ

会長挨拶

会長 長崎政直

ロータリアンの関心

今日は、社会奉仕委員会の担当例会で、小林強さんの卓話になっています。どんなお話しをしてくださるか楽しみです。小林さんとは、決議23-34(I serve)と決議92-286(I&We serve)の絡みで、未だ両者納得できる結論にいたっていない、議論中の課題であります。・・・今日のお話は、その延長線上にあるのかどうかわかりませんが、前座的な話にでもなればと思ひ、最近、ロータリーについて考えていることをお話しします。

ロータリークラブには、様々な職業、様々な性格の人がいます。その入会動機も様々です。人間は、集団を形成して生きる生物ですから、仲間が欲しいという動機で入会されるというのは、極めて基本的な入会動機で誰もが共有している動機です。そして、ロータリークラブは、親睦、自己研鑽、社会奉仕を掲げる集団ですから、そのどれかに惹きつけられて入会いただいたものと思ひます。

ロータリークラブの仲間達の関心は、理念型として、〈親睦〉〈自己研鑽〉〈社会奉仕〉であり、会員は、どこに関心があるかで、クラブでの振舞い、発言に違いが出てきます。

親睦重視の方は、そこでの趣味や遊びの共有を通して仲間作りを心がけ、その中での信頼・寛容・友情を大事に思っているようで、自己研鑽活動や社会奉仕活動は、(I)でも(We)でも、どちらでも良い。しかし“ほどほどに!!”と思っているようです。

自己研鑽重視の方は、ロータリーでの学習を通し、職業人として、己の職業を品位ある、社会貢献度の高いものに仕立てていくことに関心があり、その学習活動の共有の中で仲間作りを心がけ、信頼・寛容・友情を見出しているようです。奉仕活動については、磨かれた個人(I)とその職業や社会生活を通してやっていくのが良いと考えています。

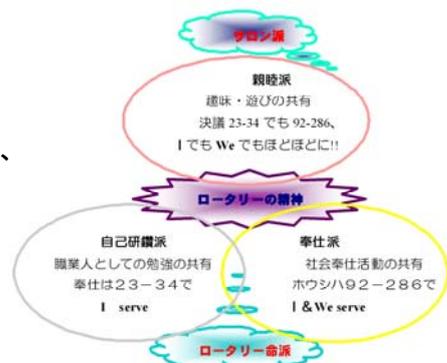
社会奉仕重視の方は、様々な地域社会や、国際社会への、また新世代への奉仕活動の実践活動を共有し、その活動を通して信頼・寛容・友情を見出しているようです。個人(I)の力は知れているので、力を集めて(We)で奉仕するのが良いと考えています。

私自身は、奉仕派だと思ひていますが、皆さんはどうでしょうか？

親睦重視派の人々は、自己研鑽派や奉仕派の人々を、ロータリー命、時にはロータリー馬鹿と揶揄することがありますし、逆に自己研鑽派、奉仕派の人々は、親睦派の人々をサロン派と揶揄します。しかし、これらの3パターンは、あくまで極端にその性格を示した理念型であって、実際、メンバーは、そのいずれかに凝り固まっているわけではありません。長年ロータリーに関わって、活動してきますと、ロータリークラブの中核にある精神、「超我の奉仕」を実現するために、〈親睦〉も〈自己研鑽〉も〈奉仕〉のいずれも等しく大事なロータリー活動だと思ひ考えるようになってきます。それぞれ、ちょっと力点が違うという程度のことだろうと、最近は思ひています。

そして、ロータリーの諸活動は、これら3要素の複合であり、クラブ会員のニーズやリーダーの想いによって、多少、その比重が変わるのだろうと思ひます。

そうは言ひながら、会員は、定款 15 条、会費を払い、綱領の受諾と定款・細則の遵守をすることによって会員たるということは、再認識する必要があります。



■ニコニコ BOX

23名	25,000円
累計	640,000円
目標額	130万円
達成率	49.2%

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	24名
出席率	68.5%
前回修正	85.7%

■今週のこぼ

昨日楽しいゴルフができました。パートナー三村さん、小林強さんに感謝します。
林 洋三

■次回のプログラム

12月23日
夜間 家族・クリスマス例会



◇幹事報告◇

- 以下の文書を受領いたしました。
 - ①ウィークリー(岡谷エコ・諏訪 RC・富士見 RC)を受領しました。
 - ②諏訪地域献血推進協議会より献血推進啓発用ポケットティッシュを 500 個送付すると連絡文書を受領致しました。現品到着次第配布致しますので献血推進にご協力下さい。
- 連絡事項
 - ①ロータリー情報として RID2720 各クラブ活性化アイデア一覧が職業奉仕委員会より配布されました。
 - ②12 月 23 日に開催されるクリスマス例会の参加調査がクラブ奉仕委員会により行なわれます。FAX 回答を宜しくお願いします。
 - ③国際奉仕委員会にて取りまとめたロータリー財団への個人寄付を本日送金致します。
 - ④国際奉仕委員会にて取りまとめた(財)ロータリー米山記念奨学会への個人寄付を本日送金致します。
 - ⑤1 月 13 日例会講師の都合により1 月 13 日と2 月 3 日の例会担当委員会を交換致します。

第 1203 回例会

担当 社会奉仕委員会
小林強会員卓話

社会奉仕の原則

会長のあいさつで、様々なロータリー観のある会員がいるが、親睦派も自己研鑽派も奉仕派も力点が違う程度だと話しました。圧倒的多数のロータリアンは自分なりの解釈をし、満足をしたり、納得をしております。私は、ロータリーと人生は一つと云った牧内操 PDG の様になればと心から思いながら何をどうすれば良いかも解りません。そこでひとつひとつ、理解を深め奉仕理念を前進させることが必要と考えました。社会奉仕委員会ですので、決められている事は正しく伝える義務があると考え社会奉仕に付いて説明致します。



基本原則が決められているものには、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の 3 つがあり、制定された時期は、1923 年の社会奉仕、1952 年の国際奉仕、1987 年の職業奉仕となっております。本日の資料として、ロータリーの章典(2007 年度版)をコピーしたものをお配りしてあります。ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである。決議 23-34 と 92-286 は社会奉仕の基本原則の主な原則ですが、決議 23-34 はロータリーのすべての活動に関わる指針であります。

23-34 には、ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものであるとし、Service above self と He profits most who serves best が記載されています。Service above self は奉仕哲学であります。He profits most who serves best は職業奉仕の実践的な原則であります。

23-34 も 92-286 も社会奉仕部分の原則は全く同じと言えます。資料の 34 ページと 37 ページにあります。23-34 ではロータリアンのすべてがとあり、92-286 ではロータリアンひとりひとりとあります。表現は違いますが、内容は同じであります。

社会奉仕は、ロータリアンひとりひとりが「超我の奉仕」を実践する機会である。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することはすべてのロータリアン個人にとっても、またロータリー・クラブにとっても献身に値することであり、社会的責務でもある。会長



はこのくだりを I serve and We serve と解釈しました。私はその様に解釈はできません。皆さんはどう解釈しますか、たった 5 ページの資料です後で目を通して考えて見て下さい。会長の云う We serve はクラブで行う奉仕活動であり、I serve を強調すればクラブがサロン化するのではないかと思えます。I も We 重要である事に異論を唱える者ではありません。

個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成すること、とはロータリーの奉仕理念を学び個人で、企業で、地域社会で生かしていくことがロータリーの目指す処と解釈します。現実に殆どの会員が業界や地域で活躍されており、社会奉仕の原則を実行しており、会長の配慮は杞憂ではないでしょうか。

地域社会における奉仕の機会を定期的に調査し会員に地域のニーズを検討させる。

プロジェクトを実施するに当たっては、会員の得意とする職業上の能力や職業以外の力を生かすこと。

今まで、地域にどのような問題があるかあまり調査しませんでした。長期計画策定に当たり、奉仕の機会を調査しようと検討してみました。参考資料の多くは、費用と時間が掛り、1 年と云う期間では結論を出せませんが、唯一クラブの資産と云う項目があり、それを調べる事で重要なリソースとして活用できることがわかりました。

お手元の資料がその用紙であります。まず本業での専門的な知識や技能を書いて下さい。その後、各方面で活躍されてきた、履歴をなるべく細かく書いて下さい。

会員の持つ貴重な資産をロータリー活動に充てることにより、クラブの活性化に繋げ、会員のコミュニケーションを深めることが出来ると思えます。この資料を活用し、長

期計画を建てたいと思います。

参考資料は思いのままに列挙しましたが、とても全てを書き上げる事はできません。どんな奉仕活動でも書いて提出して下さい。

付録

ロータリーの友 10月号に 1931年日本の2代目ガバナー 一井坂孝氏が全国のロータリアンが拳拳服膺すべき職業倫理の3ヶ条を提唱したとあります。(拳拳服膺とは、謹んで常に忘れず、心を尽くして守り行う)

第1に曰く ロータリアンたる者は約束を守るべし

第2に曰く ロータリアンたる者は賄賂を贈ることなかれ

第3に曰く ロータリアンたる者は徒に慈善事業に憂き身をやつすことなかれ

(憂き身をやつす、「苦勞も気にせず熱中する」とか「夢中になる」)

安易な慈善事業をして来たと思ってはいませんが、心しなければならぬ指摘と思います。

ロータリー・クラブの組織は 奉仕活動に適しているか?

役員任期

RIを始め地区、グループ、クラブの組織は毎年変わります。その都度 RI、地区のスローガンは変わり要望や要請も変わります。従って、奉仕活動に適したクラブと考えるには難があります、もしその様にするのであれば適任者を選任し、数年単位の任期で役員構成が行われるべきと思います。

ロータリーの組織

ロータリーの組織は、会員の得手とか不得手は関係なくほぼ全員がすべての委員会に配属され、奉仕の哲学を学び、会員同士の親交を深めます。

ガバナーやガバナー補佐、会長も絶対的な権限は与えられている訳ではなく、その役職を体験し豊かな人生に役立てるものと考えます。奉仕活動を実施するのに適した組織にするには、経験や能力に応じた人選を行い、不要な委員会は作りません。

会員資格

ロータリーは職業分類表に従い、未充填の分類から会員を推薦すると云う厳しい会員資格の原則があります。職業に於いて権限を持つことも資格要件となっております。

奉仕活動のみ目指す組織であれば、会員の資格に職業分類や経営者であることを条件にはしません。正会員やアドレシショナル会員も必要ありません。丈夫で行動力が最高の条件となるでしょう。

例会の開催

毎週開催される例会は、人生哲学を学ぶためであり、「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も

多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものであります。

「入りて学び、出でて奉仕せよ」アナハイムの会場入り口にあると聞いております。

奉仕活動をするために、毎週会議をする必要はありません。

会員の規模

ロータリー・クラブの会員はその所在地により大小の規模がありますが、ロータリー活動に規模の違いは何ら影響しません。現在当クラブの会員数は世界平均と同じです。

奉仕活動に専念するには、マンパワーが必要です。所謂人海戦術が求められます。

会費で運営

本年度事業費の占める割合は27%、大半はクラブの運営費に充てております。

奉仕活動が主であれば、会費の大半を奉仕に使い、会員の食費に充てたり、上納金や強制的な寄付などに使いません。

最近の RI の動向

RIはCLPに見られる奉仕活動重点化、中には世界最大の NGO と公言する会長まで出現。クラブの自主性を尊重し如何なる事も命じたり禁じたりしないと言いながら、ガバナーやガバナー補佐の口から出る言葉は、ポリオや財団の寄付を要請しております。日本では米山しかりであります。更に納得出来ないことは、財団の基金の使い道がアメリカの一州法によって用途が定められおり、州法に沿わない国には適用できないことでもあります。ロータリーの源流には、「日米のロータリーの衰退に比べヨーロッパや途上国ではロータリアンが増加している。ヨーロッパ諸国では徒にボランティア活動に走ることなく親睦の場として例会を大切にしていることが会員の減少を抑える原動力となっています。」と

以上の考察から、クラブは奉仕活動が主の組織ではなく、ロータリアン個々に活動要請を促すものと考えます。